

## 平成23年5月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年1月7日

上場取引所 大

上場会社名 株式会社IGポート

コード番号 3791 URL <http://www.igport.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 石川光久

問合せ先責任者 (役職名) 管理担当執行役員

(氏名) 中野広之

四半期報告書提出予定日 平成23年1月14日

TEL 0422-53-0257

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年5月期第2四半期の連結業績(平成22年6月1日～平成22年11月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年5月期第2四半期	1,937	△46.2	△41	—	△29	—	36	—
22年5月期第2四半期	3,600	△0.0	△90	—	△98	—	△114	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年5月期第2四半期	758.96	—
22年5月期第2四半期	△2,389.82	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年5月期第2四半期	5,943	3,815	64.2	79,917.97
22年5月期	5,975	3,779	63.3	79,158.91

(参考) 自己資本 23年5月期第2四半期 3,815百万円 22年5月期 3,779百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年5月期	—	0.00	—	0.00	0.00
23年5月期	—	0.00	—	—	—
23年5月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年5月期の連結業績予想(平成22年6月1日～平成23年5月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	5,127	△14.4	27	—	46	—	95	—	1,989.61

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無  
新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）  
（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 有  
（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更  
① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
② ①以外の変更 無  
（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）  
① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年5月期2Q 48,952株 22年5月期 48,952株  
② 期末自己株式数 23年5月期2Q 1,204株 22年5月期 1,204株  
③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年5月期2Q 47,748株 22年5月期2Q 47,748株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. その他の情報 .....	3
(1) 重要な子会社の異動の概要 .....	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要 .....	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書 .....	6
(第2四半期連結累計期間) .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	9
(5) セグメント情報 .....	9
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	10

## 1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、アジアや新興国向けの輸出の増加や、政府の景気刺激策の終了に伴う駆け込み需要等により、一部の企業に回復の兆しが見えたものの、先進国の景気回復の遅れや、韓朝・日中・日ロ問題で東アジアの緊張感の高まり、景気刺激策終了後の国内消費の減少、厳しい雇用情勢等、景気の先行の不透明感が払拭できない状況が続いております。

当社グループを取り巻く事業環境について、アニメーション産業は、依然として少子化や娯楽の多様化により、アニメのDVDや関連キャラクター商品等の販売等が低迷し厳しい状況が続いています。その中でも、ブルーレイディスク市場の拡大や、ビデオ・オン・デマンドサービスやモバイル配信が伸びました。また、3Dならではの迫力のある新しい映像方法が広まりました。さらに、アジア太平洋地域でのコンテンツ市場規模の拡大や、経済産業省によるコンテンツの海外市場を後押しする官民ファンドの創設等により、アニメーション産業の拡大が期待されています。出版産業は、市場規模の縮小が続く厳しい状況が続いていますが、この年末から来年にかけて電子書籍用の端末や電子書店が本格稼働を予定しており、今後の電子媒体を介したビジネスの更なる拡大が期待されています。

このような事業環境のもと、当社グループはアニメーション作品の企画・制作を行う映像制作事業、コミック雑誌等の企画、製造、販売及び電子コミックスで課金を行う出版事業、作品の二次利用による印税・収益分配金等を得る著作権事業に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,937,962千円(前年同期比46.2%減)、経常損失は29,706千円(前年同期は98,116千円の経常損失)、四半期純利益は36,238千円(前年同期は114,108千円の四半期純損失)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

#### ① 映像制作事業

映像制作事業におきましては、劇場用アニメーション「ブレイク ブレイド」「ルー＝ガルー」、テレビ用アニメーション「戦国BASARA弐」「もっとTo LOVEる」「えむえむっ!」等、その他ゲーム用・CM用のアニメーションを制作いたしました。

以上により、当事業の売上高は1,017,540千円(前年同期比63.0%減)、セグメント損失は117,544千円(前年同期は44,267千円の営業利益)となりました。

#### ② 出版事業

出版事業におきましては、新刊は、月刊誌「コミックブレイド」「コミックアヴァルス」、コミックス「ハートの国のアリス」「モノクローム・ファクター」「flat」「あまんちゅ」等、定期月刊誌12点並びに新刊コミックス50点を刊行しました。また、既刊の「ハートの国のアリス」「flat」「あまんちゅ」は、特に販売好調でありました。なお、ウェブ雑誌であるEDEN(Yahoo!コミック内)で連載された作品のコミックス及び書籍の刊行は計12点となり、現在、ケータイ配信を含む有料課金での電子配信をおこなっている作品は110点となります。

以上により、当事業の売上高は563,993千円(前年同期比8.9%増)、セグメント損失は20,917千円(前年同期は△27,208千円の営業損失)となりました。

#### ③ 著作権事業

著作権事業におきましては、「ARIAシリーズ」「東のエデン」「テイルズ オブ ヴェスペリア ～ The First Strike ～」「機動戦艦ナデシコ」「To LOVEる」「君に届け」「攻殻機動隊S.A.C.シリーズ」「xxxHOLiC◆継」「新世紀エヴァンゲリオン」「ブレイク ブレイド」等の二次利用による収益分配を計上しました。

以上により、当事業の売上高は311,323千円(前年同期比7.8%増)、セグメント利益は149,509千円(前年同期比134.5%増)となりました。

#### ④ その他

その他の事業につきましては、雑誌のイラストやキャラクターの商品化等により、当事業の売上高は45,105千円(前年同期比2.0%増)、セグメント損失は5,256千円(前年同期は8,345千円の営業利益)となりました。

### (2) 連結財政状態に関する定性的情報

#### ① 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の資産につきましては、前連結会計年度末に比べ31,459千円減少し5,943,981千円となりました。主な要因は建物及び構築物が187,648千円、仕掛品が145,474千円増加し、一方、受取手形及び売掛金が280,071千円、映像マスターが55,380千円減少したことによるものであります。

負債につきましては、負債につきましては、前連結会計年度末に比べ67,703千円減少して2,128,058千円となりました。主な要因は前受金が245,687千円増加し、一方、短期借入金150,000千円、買掛金が82,871千円減少

したことによるものであります。

純資産につきましては、四半期純利益の計上等により、前連結会計年度末に比べ36,243千円増加して3,815,923千円となりました。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末と比べ18,592千円増加し、1,667,884千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、457,659千円(前年同期は241,034千円の増加)となりました。これは主に売上債権の減少が369,966千円、前受金の増加が245,687千円、減価償却費が127,270千円となり、一方、たな卸資産の増加が130,935千円、貸倒引当金の減少が95,153千円等があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、267,562千円(前年同期は598,595千円の減少)となりました。これは主に映像マスターや建物及び構築物等の有形固定資産の取得による支出が230,650千円、投資有価証券の取得による支出が49,996千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、171,487千円(前年同期は187,419千円の減少)となりました。これは主に短期借入金の純減少額が150,000千円、長期借入金返済による支出が19,998千円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成23年5月期の業績予想につきましては、売上高5,127百万円、営業利益27百万円、経常利益46百万円、当期純利益95百万円を予想しております。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

① 棚卸資産の評価方法

当第2四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、出版事業の実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

② 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法

繰延税金資産の回収可能性の判断については、前連結会計年度末以降に経営環境等及び一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められる場合には、前連結会計年度において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングを使用する方法によっており、前連結会計年度末以降に経営環境等に著しい変化があるか、または、一時差異等の発生状況に著しい変化が認められた場合には、前連結会計年度末において使用した将来の業績予想やタックス・プランニングに当該著しい変化の影響を加味したものを使用する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、当第2四半期連結累計期間の営業損失及び経常損失は998千円増加し、税金等調整前四半期純利益は11,716千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は22,905千円であります。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年5月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,677,977	1,662,416
受取手形及び売掛金	763,554	1,043,626
商品及び製品	67,225	81,248
仕掛品	860,463	714,989
貯蔵品	2,627	3,142
前渡金	52,621	22,680
繰延税金資産	3,258	11,785
その他	55,723	50,563
貸倒引当金	△5,106	△10,364
流動資産合計	3,478,346	3,580,087
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	923,327	735,679
土地	838,506	838,506
映像マスター(純額)	63,406	118,786
建設仮勘定	—	35,605
その他(純額)	60,340	52,736
有形固定資産合計	1,885,580	1,781,314
無形固定資産		
のれん	185,201	198,550
その他	19,637	25,730
無形固定資産合計	204,838	224,281
投資その他の資産		
投資有価証券	126,748	126,743
その他	318,812	423,254
貸倒引当金	△70,345	△160,240
投資その他の資産合計	375,215	389,757
固定資産合計	2,465,634	2,395,353
資産合計	5,943,981	5,975,441

(単位:千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成22年11月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年5月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	369,916	452,787
短期借入金	300,000	450,000
1年内返済予定の長期借入金	39,996	39,996
未払金	98,061	142,656
未払法人税等	1,364	11,788
前受金	707,692	462,004
賞与引当金	2,439	1,526
返品調整引当金	45,500	58,000
受注損失引当金	75,314	—
その他	111,772	198,686
流動負債合計	1,752,058	1,817,445
固定負債		
長期借入金	319,174	339,172
退職給付引当金	34,505	36,538
その他	22,320	2,605
固定負債合計	375,999	378,315
負債合計	2,128,058	2,195,761
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	701,400	701,400
資本剰余金	1,842,569	1,842,569
利益剰余金	1,345,145	1,308,907
自己株式	△72,870	△72,870
株主資本合計	3,816,244	3,780,006
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△321	△326
評価・換算差額等合計	△321	△326
純資産合計	3,815,923	3,779,679
負債純資産合計	5,943,981	5,975,441

(2) 四半期連結損益計算書  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年11月30日)
売上高	3,600,599	1,937,962
売上原価	3,303,231	1,639,661
売上総利益	297,368	298,301
返品調整引当金戻入額	16,000	12,500
差引売上総利益	313,368	310,801
販売費及び一般管理費	404,093	352,009
営業損失(△)	△90,724	△41,208
営業外収益		
受取利息	569	901
受取賃貸料	47,751	17,312
その他	12,508	6,579
営業外収益合計	60,829	24,794
営業外費用		
支払利息	2,397	4,214
為替差損	2,754	564
投資事業組合運用損	63,066	—
賃貸収入原価	—	8,512
その他	2	1
営業外費用合計	68,221	13,292
経常損失(△)	△98,116	△29,706
特別利益		
貸倒引当金戻入額	—	95,153
特別利益合計	—	95,153
特別損失		
固定資産売却損	169	326
固定資産除却損	616	57
事務所移転費用引当金繰入額	7,565	5,625
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	8,158
その他	—	425
特別損失合計	8,350	14,593
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△106,467	50,852
法人税、住民税及び事業税	3,580	1,380
法人税等調整額	4,060	13,233
法人税等合計	7,641	14,613
少数株主損益調整前四半期純利益	—	36,238
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△114,108	36,238



(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年11月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△106,467	50,852
減価償却費	198,287	127,270
長期前払費用償却額	1,371	1,030
のれん償却額	13,349	13,349
貸倒引当金の増減額(△は減少)	2,594	△95,153
返品調整引当金の増減額(△は減少)	△16,000	△12,500
受注損失引当金の増減額(△は減少)	37,054	24,090
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,660	913
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,878	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	1,328	△2,032
受取利息及び受取配当金	△581	△907
為替差損益(△は益)	11	17
支払利息	2,397	4,214
固定資産売却損	—	326
固定資産除却損	616	57
投資事業組合運用損益(△は益)	63,066	△800
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	8,158
売上債権の増減額(△は増加)	332,111	369,966
たな卸資産の増減額(△は増加)	374,020	△130,935
仕入債務の増減額(△は減少)	△183,523	△82,871
未払金の増減額(△は減少)	△267,137	22,365
前受金の増減額(△は減少)	△590,732	245,687
前渡金の増減額(△は増加)	144,770	△29,941
未収消費税等の増減額(△は増加)	62,075	4,011
未払消費税等の増減額(△は減少)	18,828	△18,756
その他	△20,546	△26,677
小計	67,677	471,736
利息及び配当金の受取額	689	907
利息の支払額	△2,877	△3,232
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	175,545	△11,752
営業活動によるキャッシュ・フロー	241,034	457,659

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成21年6月1日 至平成21年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成22年6月1日 至平成22年11月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△3,030	—
定期預金の払戻による収入	3,022	3,030
有形固定資産の取得による支出	△588,229	△230,650
無形固定資産の取得による支出	△2,562	△2,072
投資有価証券の取得による支出	—	△49,996
出資金の払込による支出	△5,250	—
保険積立金の積立による支出	△2,243	△2,322
差入保証金の回収による収入	—	14,248
その他	△301	199
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△598,595</b>	<b>△267,562</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△100,000	△150,000
長期借入れによる収入	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△2,500	△19,998
自己株式の取得による支出	△181	△72
配当金の支払額	△9,234	△56
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△665	△1,360
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>187,419</b>	<b>△171,487</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△11	△17
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△170,152	18,592
現金及び現金同等物の期首残高	1,582,510	1,649,291
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,412,357	1,667,884

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年6月1日至平成21年11月30日)

	映像制作事業 (千円)	出版事業 (千円)	著作権事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対する売上高	2,749,657	517,981	288,727	44,232	3,600,599	—	3,600,599
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	2,749,657	517,981	288,727	44,232	3,600,599	—	3,600,599
営業利益又は営業損失(△)	44,267	△27,208	63,758	8,345	89,168	△179,888	△90,724

(注) 1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各区分の主な製品

- (1) 映像制作事業……劇場アニメ、TV・ビデオアニメ、ゲームムービーその他。
- (2) 出版事業……コミック誌、コミックス等。
- (3) 著作権事業……印税、分配、窓口手数料等。
- (4) その他事業……ゲームソフト、音楽・映像ソフト、イラスト、キャラクター商品販売等。

[所在地別セグメント情報]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年6月1日至平成21年11月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第2四半期連結累計期間(自平成21年6月1日至平成21年11月30日)

海外売上高は、連結売上高の10%未満であるため、海外売上高の記載を省略しております。

[セグメント情報]

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、映像制作事業、出版事業、著作権事業の各事業単位で包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

当社は事業別セグメントから構成されており、「映像制作事業」「出版事業」及び「著作権事業」の3つを報告セグメントとしております。

「映像制作事業」は、劇場アニメ、TV・ビデオアニメ、ゲームムービー等の企画・制作を行っています。

「出版事業」はコミック誌、コミックス等の企画・製造・販売を行っています。「著作権事業」は、出資による印税、分配、窓口手数料等を得ております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第2四半期連結累計期間(自平成22年6月1日至平成22年11月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	映像制作事業	出版事業	著作権事業	計		
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	1,017,540	563,993	311,323	1,892,857	45,105	1,937,962
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,017,540	563,993	311,323	1,892,857	45,105	1,937,962
セグメント利益又はセグメント損失(△)	△117,544	△20,917	149,509	11,047	△5,256	5,791

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、原稿(雑誌のイラスト)や商品販売等を行っています。

3. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

当第2四半期連結累計期間(自平成22年6月1日至平成22年11月30日)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	11,047
「その他」の区分の利益	△5,256
のれんの消去額	△13,349
全社費用(注)	△33,650
四半期連結損益計算書の営業損失(△)	△41,208

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない販売管理費及び一般管理費であります。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。